

9 日本の工業とその変化

○日本の工業の特色と工業地域

日本の工業:(軽工業 *)から始まり、(重化学工業 *)、(先端技術産業 **)へと発展

※(軽工業)とは、日常生活で使う比較的軽い製品を生産する工業のこと

(重化学工業)とは、比較的重い製品を生産する重工業と、化学反応を利用して製品を生産する化学工業を合わせた工業のこと

(先端技術産業)とは、生産に高度な技術を必要とする製品を生産する工業のこと

明治時代以降:京浜・中京・阪神・北九州などの工業地帯で発達

第二次世界大戦後:臨海部に製鉄所や石油化学コンビナートなどが立地

→(太平洋ベルト ***)とよばれる帯状の工業地域が形成

1970年代以降:(輸送機械工業)や(電気機械工業)などの組み立て型の工業の発展

→大都市圏の周辺や東北地方・九州地方などの内陸部に工業地域が形成

背景 交通網の整備→高速道路沿いや空港近くに工業団地が整備

組み立て型の工業の発展→部品工業が地方に分散

研究や技術開発を行う研究所→都市部やその周辺に立地

○変化する日本の工業

日本の工業:原料や燃料を輸入し、工業製品を作って輸出する(加工貿易 **)により発展

1980年代:外国製品との競争により、(貿易摩擦 ***)が生じる

→日本企業がアメリカやヨーロッパなどに進出、自動車や電気製品を現地で生産

※(貿易摩擦)とは、ある国とある国との貿易が原因で、国内の産業・社会に生じる問題のこと

1980年代以降:賃金の安い労働力や新たな市場を求め、中国や東南アジアへ進出

→日本企業の多くが多国籍企業として世界各地で生産

→日本企業の海外工場からの工業製品の輸入も増え、工業のグローバル化が進む

[課題] 一部の工業で、国内の生産が衰退する(産業の空洞化 **)がみられる

→国内の工業地域では、高機能製品や環境技術など、新たな技術革新に力を入れる